

平成 26 ( 2014 ) 年度 教員活動報告書 ( 1/4 )

学部・学科	臨床心理学部・臨床心理学科	職名	講師	氏名	クラニシ 倉西 ヒロシ 宏
学歴	平成15年 3月 京都文教大学人間学部臨床心理学科 卒業 平成18年 3月 京都文教大学大学院臨床心理学研究科博士前期課程 修了 平成22年 3月 京都文教大学大学院臨床心理学研究科博士後期課程 単位取得後退学				
学位	平成18年 3月 臨床心理学修士 ( 京都文教大学 ) 平成23年 3月 臨床心理学博士 ( 京都文教大学 )				
専門分野	臨床心理学				
専門資格	臨床心理士 ( No.17678 )				
所属学会	平成16年 7月 日本心理臨床学会 平成17年 7月 日本箱庭療法学会 平成21年 4月 日本集団精神療法学会 平成21年 4月 日本自殺予防学会 平成21年 4月 日本死の臨床研究会 平成25年 4月 日本ユング心理学会				
受賞					
担当授業科目	学 部 心理学実験査定 ( 初級 ) ・ 、心理学実験査定 ( 中級 ) A-1・A-2・B-1・B-2、臨床観察実習、コミュニケーションスキル演習、初年次演習、臨床心理学実践演習 ( グループアプローチ )				
論文指導	論文指導担当 [ 主査 ] ( 該当無し ) 論文審査担当 [ 副査 ] ( 卒論 : 7名 )				
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	科目名	科目カテゴリー	実施学期	履修者数	
	臨床心理学実践演習	講義・演習・実習・実験	春・秋	約 10 名	
	授業の概要 : 喪失体験に焦点を当てて、自分自身の体験をグループで共有することを体験する実践的科目。				
	教育活動の振り返り 教育活動の成果 : これまで流れていくことが多かった自分自身の喪失体験を入口として自分自身について考えることができたという感想は多く、さらに普段表現しないこともこの場では表現でき、新しい自分の発見となったとのことであった。 今後の課題 : 思ってもいなかった感情があふれることもあったため、安全性を高めながら実施していくことが必要だと考えられる。				
・学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績 平成27年 1月 8日 大阪大学主催・関西地区FD連絡協議会FD共同実施WG共催「ルーブリック評価入門 ~時短・ブレない・公平な評価方法~」参加。於 : 大阪大学 平成27年 3月 5日 京都文教大学 2014年度 第2回FD講演会「授業と評価をつなぐ為に ~ルーブリック評価入門~」に於いてルーブリックの事例を発表。					
・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等 オフィスアワー等による大学生の個別指導 ( 研究、臨床、学生生活等 ) を行った。 博士後期課程の院生と共に科学研究費助成事業による研究を実施し、学会発表も共に行った。 後述 : ( 学会報告、学会活動 ) ( 調査活動 )					

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2/4)

<p>H26 年度 研究課題</p>	<p>1. 遺児大学生へのグリーフケアグループ実施の意義についての検討 2. 自死遺児研究、喪失の語りの意義についての検討 3. 樹木画の臨床的活用に関する検討</p>
<p>年度の 研究活動の 概要 平成二十六 (2014)</p>	<p>1. 日本学術振興会科学研究費助成事業(課題番号25870923 若手(B))から助成金を得て 後述:(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)、グループによる死別体験者のわかちあいの会を実施し、その参加の意義を検討した。わかちあいの会に参加しない対照群も設定し、比較検討を行う調査研究を行っている。 2. 共著による出版が正式に決定し、原稿は提出済みで2015年5月に出版予定である。 3. 事例検討を進め、事例の執筆を進めており、2015年度には投稿ができる段階までに至った。</p>
<p>平成二十六 (2014) 年度の 主な 研究 成果等</p>	<p>(著書)</p> <p>(論文)</p> <p>1. 「大学生の自殺予防教育プログラムに向けた『悩みとその対処方法』に関する調査 相談することへの抵抗感に着目して」、共著、平成26年12月、共同執筆者:市瀬晶子・引土絵未・李善恵・大倉高志・山村りつ・全海元・高仙喜・尾角光美・木原活信、関西学院大学 人間福祉学研究Vol.7 1(pp.115-12)</p> <p>(学会報告、学会活動)</p> <p>1. 「青年期を迎えた遺児へのグリーフケアグループの意義 死別体験への取り組みにおける心的変化の可能性」、共同、平成26年8月、共同発表者:大日方薫、小林昌幸、藤井茉衣子、日本心理臨学会第33回秋季大会、パシフィコ横浜</p> <p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)</p> <p>(調査活動)</p> <p>平成26年度 遺児大学生へのグリーフケアグループの参加体験についての調査</p> <p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)</p> <p>平成25年度-平成27年度 日本学術振興会科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金(若手研究(B))「遺児大学生へのグリーフケアグループ実施の意義 悲嘆と人格変化への効果の検討」(課題番号25870923) 研究代表者</p> <p>(学内活動)</p> <p>FD委員会委員、教職課程委員会委員、心理臨床センター兼任カウンセラー</p>
<p>平成二十六 (2014) 年度 の 社会 にお ける 活動</p>	<p>(小中高との連携授業の講師)</p> <p>平成26年11月 京都府立東宇治高等学校 模擬授業「失うことと心の成長～喪失と獲得の臨床心理学」、於:同校</p> <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 四天王寺太子学園 臨床心理士「平21.4より」</li> <li>・ カウンセリングルーム*オータム 室長「平25.4より」、カウンセラー「平24.11より」</li> </ul>
<p>平成二 十一 ～ 二 十五 (2009 ～ 2013) 年 の 主 な 研 究 成 果 等</p>	<p>(著書)</p> <p>1. 第2部第5章「手足のしびれを訴える女子大学生との面接過程 「私」ならざる「私」との出会い」、共著、平成23年9月、誠信書房、岸本寛史編、臨床バウム 治療的媒体としてのバウムテスト(pp.63-80)</p> <p>2. 「遺児における親との死別の影響と意義 病気遺児、自死遺児、そして震災遺児がたどる心的プロセス」、単著、平成24年12月、風間書房、219p</p> <p>3. 第 部 第5章「声を失った女性が楽器と歌の奏でを取り戻すまで 彼岸を思う在りよう」、共著、平成25年8月、誠信書房、岸本寛史・山愛美編、臨床風景構成法 臨床と研究のための見方・入り方(pp.87-105)</p>

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (3/4)

平成二十一～二十五(2009～2013)年度の主な研究成果等

(論文)

1. 「自死遺児が抱える親との死別体験の影響とその位置づけ」, 単著、平成22年3月、日本自殺予防学会 自殺予防と危機介入第30巻1号 (pp.69-75)
2. 「遺児のセルフヘルプグループの意義とその心的プロセス 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて」, 単著、平成22年6月、日本集団精神療法学会 集団精神療法第26巻1号 (pp.51-60)
3. 「遺児における親との死別体験の位置づけとその変化 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて」, 単著、平成22年8月、日本死の臨床研究会 死の臨床33巻1号 (pp.114-119)
4. 「親との死別が引き起こす家族、他者、喪失対象との関係の変化 ~遺児が抱える孤独感と喪失対象との再結合の影響を中心に~」, 単著、平成22年12月、日本心理臨床学会 心理臨床学研究28巻5号 (pp.619-630)
5. 「臨床心理士指定大学院に附属する相談機関の在りかたに関する一考察 場所とつながる臨床のための工夫」, 単著、平成23年3月、追手門学院大学心のクリニック紀要第7号 (pp.42-44)
6. 「全国の臨床心理士指定大学院に附属する相談機関の情報 開室時間・曜日、相談料金、相談内容について」, 単著、平成23年3月、追手門学院大学心のクリニック紀要第7号 (pp.8-13)
7. 「遺児における死別体験の意義とその心的プロセス」, 単著、平成23年3月、京都文教大学博士論文、154p
8. 「メンバーの語りにもみる『居場所型デイケア』の意義と課題(研究方法、結果、考察)」, 共著、平成23年8月、共同執筆者: 中川美世香・大日方薫、日本デイケア学会 デイケア実践研究15巻 (pp.3-7)
9. 「阪神・淡路大震災16年後における震災遺児への心理的影響とその位置づけ 改定出来事インパクト尺度と半構造化面接による報告」, 共著、平成23年10月、共同執筆者: 八木俊介、明治安田こころの健康財団 研究助成論文集46 (pp.139-148)
10. 「地域別における臨床心理士指定大学院に附属する相談機関(全165機関)の情報 開室曜日・時間、相談料金、援助内容について」, 単著、平成24年3月、京都文教大学心理臨床センター 臨床心理研究第14号 (pp.77-91)
11. 「阪神・淡路大震災遺児における震災と死別の影響とそのうつり変わり 震災16年後の心的体験」, 単著、平成24年3月、京都文教大学心理臨床センター 臨床心理研究第14号 (pp.93-100)

(学会報告、学会活動)

1. 「阪神・淡路大震災12年後における震災遺児とその養育者への「改定出来事インパクト尺度 (Impact of Event Scale-Revised: IES-R)」」, 共同、平成22年3月、共同発表者: 八木俊介、第9回日本トラウマティックストレス学会、兵庫県こころのケアセンター
2. 「『デイケアと私』居場所型デイケアについての一考察 シンポジウムでのメンバーの語りから」, 共同、平成22年9月、共同発表者: 中川美世香・大日方薫、日本心理臨床学会第29回秋季大会、東北大学
3. 「大学生の自殺予防プログラム開発に向けた予備的調査 大学の悩みと対処方法について」, 共同、平成23年12月、共同発表者: 市瀬晶子・引士絵未・全海元・高仙喜・李善恵・大倉高志・尾角光美・田邊蘭・山村りつ・木原活信、第35回日本自殺予防学会、沖縄コンベンションセンター

(その他・エッセイ・翻訳・学術講演等)

1. 「京都文教大学子ども臨床研究会座談会 「すきっぷプログラム」を継続していく中で・メンバーとの連携や関わりについて思うこと」, 共著、平成21年3月、共同執筆者: 川畑直人・諏訪部亮一・浜田真紀子・福井咲月・水上奈保美・安田真由美・湯浅安津子・京都文教大学心理臨床センター 臨床心理研究第10号 (p.93-106)
2. 震災遺児に寄り添った15年「変わりゆく思い・変わらない事実」, 単著、平成22年1月、あしなが育英会 神戸レインボーハウス・小冊子: 遺児たちが語る・いまの思い (pp.35-37)
3. 「専任カウンセラーによるシンポジウム「カウンセリングの導入部における試行錯誤」」, 共著、平成23年3月、共同執筆者: 大日方薫・坂口なぎさ・服部美佐子・京都文教大学心理臨床センター 臨床心理研究第13号 (pp.1-15)

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (4/4)

平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の主な研究成果等	<p>(調査活動)</p> <p>平成22年10月 阪神淡路大震災遺児への死別・震災体験、さらにそれらを語ることの意義についての調査「平成26.4まで」</p> <p>平成25年度 1. 阪神淡路大震災遺児への死別・震災体験、さらにそれらを語ることの意義についての調査「平22.10より」 2. 遺児大学生へのグリーフケアグループの参加体験についての調査</p>
	<p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)</p> <p>1. 第46回(平成22年度)明治安田こころの健康財団研究助成「阪神・淡路大震災における震災の心理的影響とその変化 改定出来事インパクト尺度と半構造化面接を中心とした検討」(研究代表者:あしなが育英会・八木俊介)共同研究者</p> <p>2. 第41回(平成22年度:平成22年10月-平成24年9月)三菱財団研究助成 社会福祉分野助成「大学における自殺予防教育プログラム開発に関する研究」(研究代表者:同志社大学・社会学部社会福祉学科・教授 木原活信)共同研究者</p> <p>3. 平成24年度 日本学術振興会科学研究費助成事業研究成果公開促進費・学術図書(課題番号245201)「遺児における親との死別体験の影響と意義 病氣遺児、自死遺児、そして震災遺児がたどる心的プロセス」研究代表者</p> <p>4. 平成25年度 公益財団法人JR西日本あんしん社会財団研究助成「遺児大学生への短期グリーフケアグループの意義 悲嘆と人格変化への効果検討」研究代表者</p>
	<p>(学内活動)</p> <p>平成24年 4月 心理臨床センター兼任カウンセラー「現在に至る」</p> <p>平成25年 4月 臨床心理学部研究報告編集委員会委員「平26.3まで」</p>
平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の社会における活動	<p>(小中高との連携授業の講師)</p> <p>平成23年 9月-10月 滋賀県立水口東中学校「こころの教育」特別非常勤講師</p> <p>平成24年 9月-10月 滋賀県立水口東中学校「こころの教育」特別非常勤講師</p> <p>平成25年 9月 滋賀県立水口東高等学校模擬授業講師、「マンガから見る人と心と思春期と」</p>
	<p>(自治体や企業における研修等の講師)</p> <p>平成23年11月 城陽市自殺予防対策事業市民公開講座講師、演題「グリーフケアについて学ぶ～離別や死別の悲しみに寄り添い、共に生きるために～」、於:鴻の巣会館3階ホール</p> <p>平成24年 3月 公開セミナー「青少年の自殺を取り巻く環境 日本とスウェーデンの実情から」シンポジスト、於:同志社大学</p> <p>平成25年 8月 亀岡市 自殺対策ステップアップ研修講師、「遺族の心理と回復、周囲の関わりについて」、於:亀岡市役所</p>
	<p>(その他)</p> <p>平成18年 4月 奈良県スクールカウンセラー「平23.3まで」</p> <p>平成19年 3月 つかさき医院 心理士「平22.3まで」</p> <p>平成19年 9月 あしなが育英会 カウンセラー「平26.3まで」</p> <p>平成21年 4月 四天王寺太子学園 臨床心理士「現在に至る」</p> <p>平成22年 4月 京都文教大学心理臨床センター 専任カウンセラー「平24.9まで」</p> <p>平成24年11月 カウンセリングルーム*オータム カウンセラー「現在に至る」</p> <p>平成25年 4月 カウンセリングルーム*オータム 室長「現在に至る」</p>